２０２３年５月

鈴鹿市立清和小学校

大井　るみ

令和５年度　校内研修実施計画

Ⅰ　研究主題及び教科

|  |  |
| --- | --- |
| 研究主題 | 仲間とともにねばり強く学び続ける子ども  ～主体的・対話的で深い学びを通して～ |
| 教科・領域 | 国語科・算数科 |

Ⅱ　主題設定の理由

１　これまでの研究の経過

本校では，令和２年度から「伝えたいを実現する子ども～目的と相手に合わせて～」という研修テーマで研修を行ってきた。令和２年度，３年度は「書くこと」，令和４年度は，これに加えて「話すこと」「聞くこと」を焦点に当てて，研修を進めてきた。目的と相手を設定したことで，指導者は指導の方向性が明確になり，多くの子どもが相手意識，目的意識をもつことの大切さを理解することができた。一方で，子どもが実際に目的意識や相手意識をもって伝えることができているかというと，まだ多くの課題がある。授業の目的と子どもがしたいことが一致していなかったり，伝える相手に合った伝え方になっていなかったりする。また，子どもたちの話し合いが授業のめあてや内容に沿っていないこともある。

このような実態から，今年度はこれまでの研修を引き継ぎつつ，研修テーマを新たに「仲間とともにねばり強く学び続ける子ども～主体的・対話的で深い学びを通して～」と設定し，研修を進めていきたい。子ども自ら単元や授業のめあてを意識し，そのめあてに向かって仲間と伝え合いながら学びを深めていけるような力の育成を目指す。また，そのためにも，子どもが安心して学ぶことができる学級づくりや，個々の自己肯定感や自尊感情を高めていく取り組みを進めていきたい。

２　学習指導要領とのかかわり

「主体的・対話的で深い学び」について，学習指導要領では，以下のように示されている。

|  |
| --- |
| 習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう。 |

ここにあるように，主体的・対話的で深い学びは，特定の授業だけで目指すものではなく，単元・題材を通して目指していくべきものである。また，活動への意欲が高まり，活発に話し合っていたとしても，教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせなければならないことも示唆されている。この「見方・考え方」はその教科の本質と言い換えることもできる。今年度は，研修教科を国語科と算数科で行うが，それぞれの教科，単元の学習を進めていく際には，その教科や授業でしか学べないことを意識し，授業を構成していきたい。その上で，子どもの実態に応じて，「主体的・対話的で深い学び」が実現されるような手立てを工夫し，子どもが興味・関心をもって学びに向かうことができる活動を設定していきたい。

Ⅲ　研究内容及び方法

１　今年度の研究について

（１）研修構想

|  |
| --- |
| 【学校教育目標】  自ら学び，ともに考えようとする子どもの育成 |

|  |
| --- |
| 【研究主題】  仲間とともにねばり強く学び続ける子ども～主体的・対話的で深い学びを通して～ |

|  |
| --- |
| 【目指す子どもの姿】  ・意欲をもって自ら学習活動を進める子ども  ・仲間と関わり物事を多面的に捉える子ども  ・その教科ならではの面白さや良さを味わう子ども |

|  |
| --- |
| 【主な研修内容】   1. 低・中・高学年で主体的・対話的で深い学びを意識した国語科・算数科の授業づくり ・目指す子どもの姿に迫るための手立ての工夫 ・学年ごとに身につけさせたい力を見据えた言語活動 2. 全学年重点取組「つづけてみよう」の取り組み 3. 語彙を増やす取り組み 4. ペア学習・グループ学習の積極的な活用 5. 他教科・特別活動等との関連 6. 学びの基盤づくり |

（２）研修内容について

①低・中・高学年で主体的・対話的で深い学びを意識した国語科・算数科の授業づくり

・目指す子どもの姿に迫るための手立ての工夫

子どもに身につけさせたい知識・技能，指導の重点などを整理し，その教科，その単元ならではの面白さや良さを味わえるような授業構成を考える。その上で，授業の中で意欲をもって学習活動を進めるための手立てや，仲間と関わり物事を多面的に捉えるための手立てを設定する。

・学年ごとに身につけさせたい力を見据えた言語活動

「聴くとき」・「話すとき」・「話し合うとき」・「書くとき」の身につけさせたい力を以下のように設定する。話し手の考えをよく聴き，また，話し手も一回の説明で伝えることができるよう指導していくことが大切である。また，自分の考えをまとめるために，必要な情報を活用する力を段階的に身に付けることも大切である。

＊聴くとき

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 低 | 1. 聴こうと思って， 2. 最後まで， 3. 感想をもつ。 | 話し手が知らせたいことや自分が聴きたいことに興味をもち，落とさないように集中して聴き，話の内容を捉えて感想をもつことができる。 |
| 中 | 1. メモをする。 2. 質問をする。 3. 話の中心を捉える。 4. 自分の考えをもつ。 | 必要なことを記録したり質問したりしながら聴き，話し手が伝えたいことや自分が聴きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつことができる。 |
| 高 | 1. 目的や意図に合わせて 2. 自分の考えと比べる。 3. 自分の考えをまとめる。 | 話し手の目的や自分が聴こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができる。 |

＊話すとき

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 低 | 1. 話す順序を考える。 2. 声量や速さに気を付ける。 | 相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考え，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫することができる。 |
| 中 | 1. 理由や事例を入れる。 2. 話の組み立てを考える。 3. 抑揚，強弱，間の取り方に気を付ける。 | 相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考え，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫することができる。 |
| 高 | 1. 考えと事実を分ける。 2. 話の構成を考える。 3. 資料を活用する。 | 話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考え，資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。 |

＊話し合うとき

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 低 | 1. 質問をする。 2. 相手が言ったことを確認。 3. 共感する。 | 互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐことができる。わからない言葉がないか考えながら聞き，質問したり，相手が言ったことを繰り返して確認したりする。 |
| 中 | 1. 話し合いの流れを整理。 2. 目的に沿っているか確認。 3. 共通点や相違点に着目。 | 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめることができる。 |
| 高 | 1. 互いの考えや意図を理解。 2. ゴールを意識する。 3. 多面的・多角的に捉える。 4. 考えの変容に気付く。 | 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすることができる。合意形成のための話し合いなのか，互いの意見を交流させて考えを広げるための話し合いなのか事前に確認する。 |

＊書くとき

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 低 | 1. 書く順序を考える。 2. つなぎ方を考える。 3. 文章を読み返す。 | 自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。文を読み返すことで間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。 |
| 中 | 1. 文章の組み立てを考える。 2. 理由や事例を使う。 3. 相手や目的を意識した表現になっているか確認する。 | 書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考え，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。文を読み返すことで，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えることができる。 |
| 高 | 1. 文章全体の構成や展開を考える。 2. 目的に合わせて書く。 3. 資料を活用する。 4. 文章全体の構成や書き表し方などに着目する。 | 筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考え，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたり，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。文を読み返すことで，文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えることができる。 |

②全学年重点取組「つづけてみよう」の取り組み

国語科「つづけてみよう」で各学年提案されている活動を今年度も週１回以上取り組む。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学年 | 教科書 | 内容 |
| １年生 |  | 文章を書く際の形式や言葉の使い方等の定着。「書くこと」についての素地を養う。 |
| ２年生 | ㊤きょうのひとこと  ㊦きょうのひとこと | 毎日一言を書き続けることで，書くことに慣れ親しむ。段階に応じて，観点を増やしたり，理由をつけたりすることで高める。また，友だちと伝え合うことで，質問する力や聞く力等を高める。 |
| ３年生 | ㊤日記を書こう  ㊦日記を読み返そう | 日記を書く観点を紹介し，日常の気づきを取り上げて表現することで，言語能力を高める。また，友だちと交流することで，相手に応じた文章構成を意識する。さらに，自分自身の文章を読み返す機会となり，自分自身を客観的に見つめることや成長を実感することをねらう。 |
| ４年生 | ㊤国語辞典に親しもう  ㊦いろいろな辞典に親しもう | 辞書を引くことを通して，語彙を積極的に増やし，表現力につなげる。また，さまざまな辞典を日常的に使うことで，辞典を身近なものにし，活用していけるようにする。 |
| ５年生 | 日々のことを記録しよう | 記録に残すことで，考えの整理や記憶の定着を図る。また，構成を提示することで，自分なりに構成を工夫する際の基盤づくりとする。さらに，継続的に取り組むことで，今後の学習活動情報収集に生かすことができる。 |
| ６年生 | 気になるニュースを集めよう | 題材に対して自分の意見や感想を述べさせることで，筋道の通った文章となるように，構成や展開を考えて，事実と感想，意見とを区別して書くことができるようにする。 |

③語彙を増やすための取り組み

語彙は，全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の重要な要素である。語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っていきたい。

|  |  |
| --- | --- |
| 学年 | 指導する語句のまとまりの内容 |
| 低学年 | 身近なことを表す語句／意味による語句のまとまりがあることに気付く。 |
| 中学年 | 様子や行動，気持ちや性格を表す語句／性質や役割による語句のまとまりがあることを理解する。 |
| 高学年 | 思考に関わる語句／語句の構成や変化について理解する。語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使う。 |

・「言葉のたから箱」の活用

発達段階に応じた「考えや気持ちを表す言葉」が数多く提示されている。似た意味の言葉が載っているので，使い分けなどを考える助けなり，考えを深めるための手がかりにもなる。作文や日記を書く際に取り入れたり，物語の登場人物の人柄を説明する際に用いたりする等，さまざまな場面で活用していきたい。学習した言葉は教室内に掲示する等，子どもたちに少しでも多く目に触れさせる機会を設けたい。

・辞書引き

　　子どもの机の横に国語辞典を入れた手提げ袋をかけており，分からない言葉や書けない漢字に出合ったときはいつでも辞書引きをして調べるようにしている。低学年は知っている言葉を見つける等，国語辞典に親しむことをねらいとし，主に体験を通して新しい言葉との出会いを大切にしていく。中学年以上は「〇〇ってどういう意味か」という子どもたちの問いかけに指導者がすぐに答えを伝えるのではなく，辞書引きを促すように指導していく。指導者も常に平易な言葉でわかりやすい説明をするのではなく，学年に合わせて少し難しい言葉をあえて使うことも取り入れる。必要なときにはいつでも辞書が手元にあり，使えるような言語環境をつくっておくことが重要である。また，国語科に限らず，他の教科等の調べ学習や日常生活の中でも積極的に国語辞典を利用できるようにしていきたい。

・音読指導

　　文章を声に出して読む音読を行うことで，黙読では理解できなかった文章が理解しやすくなり，黙読の時は読み飛ばしていた助詞に気付いたりすることができる。漢字の読み方や言葉の意味，文の流れや文の切れ目を考えながら読むことが必要になるため，自然と文章構造や論展開を考えられるようになる。まず，姿勢や口の形などを知り，声をしっかり出すことを身に付けさせ，学年に応じて場面の様子や登場人物の感情の変化，筆者の伝えたいことについて，声量や速さの調整の仕方，間の取り方などを指導することで，聞き手を意識した読み方を身に付けさせていきたい。

・類語辞典の活用

　　作文を書いたり，スピーチをしたりする活動において同じような単語が並んでしまうことがよくある。類語辞典から複数の言葉の案を見つけ出し，そこから最も自分の気持ちに近いものを選んで使うという経験を重ねることで語彙を増やしていきたい。また，初歩的な言葉でもさまざまな言葉の言い換えができることに気付き，場面に応じて使い分けられる力を育成する。

　・算数用語の定着

　　算数科の授業では「算数用語」を習得していく。日常生活では使用する機会が少ないため，授業で繰り返し使用していかないと定着しない。指導者が意識的に使用することはもちろん，子どもが算数用語を使って説明した際には褒めるようにしたい。また，子どもが「cm」を「センチメートル」と言わずに「センチ」と言うように省略することがあるので，正しく使用するように指導したい。

④ペア学習・グループ学習の積極的な活用

　　一斉授業では発言しにくい子どもも，ペア学習やグループ学習では発言できることがある。また，仲間との協力が必要不可欠であり，自主的に考えて行動しなければいけないため，自分自身で考える力が身につく。発達段階を考えて，低学年はペア学習，中学年は司会や記録などの役割を決めてグループ学習の話し合い活動を取り入れていく。高学年はグループ学習をする意義や流れなどを理解した上で，あまり型にはめずに自分たちで目的に沿って活動を進められるように指導していく。

|  |
| --- |
| ペア・グループ学習の約束  ①お互いに向き合って，相手の顔を見る。  ②相手の考えを最後まで聞く。  ③全員に聞こえる声ではっきり話す。  ④聴きながらうなずいたり，相づちをうったりする。  　　相づちの例  　「なるほど」「いいですね」「うんうん」「そうなんだ」  　「わかるよ」「そうだよね」「知らなかった」   1. 相手の考えに対して，必ず何か返す。できるなら，その後に自分の考えを言う。   　「私の考えと似ていました。」「私の考えと少し違います。私は…。」  　「私は〇〇と思っていたけれど，△さんの意見を聞いて…。」  　「もう一度，〇〇の部分を説明してください。」 |

⑤他教科・特別活動等との関連

　　国語科で習得した言語能力，算数科で習得した情報処理能力を活かせる場を，国語科，算数科以外の教科・領域，場面においても設定する。他教科や特別活動（学級活動や委員会活動）等で繰り返し使い，子どもたちの言語能力や情報処理能力をより確かなものへと育成していく。生活科や総合的な学習の時間において課題に対する自分の考えをもつ，調べたことを発表する，委員会活動において他学年へお知らせを伝える，異学年同士で学習発表をし合う等，効果的な指導について検証していきたい。

〇学びの基盤づくり

・授業の始まりと終わりについて

　　チャイムで切り替えて行動する，チャイムで授業を始めるなど，発達段階を考慮し，待たずに待つなど始業のルールを学年で統一して行い，チャイムで授業を終える。始業前に学習の用意を済ませておき，用意の出来た子どもから教科書やノート等を開き，下敷きを挟んで日付を書いたり，前時の学習を振り返ったりするなど，自分で学習を始められるように指導を行っていく。

・めあてとふりかえり

　　めあては，具体的につけたい力を身に付けさせるための目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示すものである。子どもたちが主体的に学習に取り組めるような，指導者のねらいに沿っためあてを立てて授業を進めていくが，時には子どもたちがめあてを考えて学習していくような形態も取り入れていく。ふりかえりは，めあてに正対したものであり，学びの成果を実感させ，学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるような視点を設けて振り返らせたい。型にこだわるのではなく，単元の展開や本時のねらいに応じて適切に設定していく。

・安心して学習できる学級づくり

　　学級内で話そうとする意識を持たせるためには，安心して発言できる学級集団づくりが大切になってくる。そのためには，まずはしっかりと最後まで，仲間の話を関心をもって聞こうとする態度の育成，お互いの考えや思いを尊重する態度，仲間の考えから学び，自分の考えを深めていこうとする意識など，さまざまな側面を学校生活全般において育てていく必要がある。人権教育推進担当とも連携して取り組んでいきたい。

・学習環境の整備

　　教室環境を整理整頓するだけではなく，学習のねらいを意識し，子どもが自分から興味をもって学習に取り組むことができるように環境を整えることである。すべての指導者が共通して指導することで，教員による指導のずれを無くし，児童も安心して過ごせるようにしていきたい。

・家庭学習の定着

　　家庭学習は宿題＋自主学習とし，学習時間は学年×１０分＋αとする。４月に家庭学習の手引きと家庭学習を支える４つのポイントを配布し，年間を通して家庭学習の意義ややり方について指導を続けていく。また，４年生以上で自主学習ノートを作り，原則毎日取り組んでいく。

・読書活動の充実

　　子どもが本に親しみ，読書への関心を高める取り組みを行う。教材を読み進めるにあたって必要な情報を得ることができるように，物語や説明文の内容に関連した本を手に取れるような機会を設けていきたい。学校図書館では限界があるため，図書巡回指導員による支援を活用しながら読書環境を整えていく。

Ⅳ　年間研修計画

①授業研究の実施

学年部で全体研を１つ（低・中・高・ほ）＋学年部研を１つ行い，授業力・指導力を高める機会としていきたい。全体研は国語科または算数科とし，学年部研は人権または国語科または算数科とする。

②授業研究日程

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年 | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 | 特支 |
| 日程 | ９／２１ | 未定 | １０／５ | ６／９ | １０／４ | １／２４ | 未定 |
| 教科 | 算数科 | 国語科 | 国語科 | 算数科 | 人権 | 国語科 | 未定 |

③研修計画

４／１８（火）　　全国学力学習状況調査（６年）・みえスタ（４・５年）

４／２６（水）　　学調・みえスタ自校採点

５／２４（水）　　学調・みえスタ分析

５／３１（水）　　校内研修会（全体研①事前検討会４年，情報研修）

６／　９（金）　　校内研修会（全体研①事後検討会４年※講師依頼）

６／２８（水）　　校内研修会（人権レポートの書き方研修）

夏休み（未定）　　校内研修会

８／　１（火）　　創徳中校区夏季研修会

８／１７（木）　　教育研究集会

８／１８（金）　　全員学習会　イスのサンケイホール鈴鹿

９／１３（水）　　校内研修会（全体研②事前検討会１年，学調分析）

９／２１（木）　　校内研修会（全体研②事後検討会１年※講師依頼）

１１／　１（水）　校内研修会

１１／２９（水）　校内研修会

冬休み（未定）

１／１６（火）　　校内研修会　（全体研③事前検討会６年）

１／２４（水）　　校内研修会　（全体研③事後検討会６年※講師依頼）

２月（未定）　　　校内研修会

３月（未定）　　　校内研修会（研修のまとめ，カリキュラムマネジメント）